平和とよりよき生活のために
広島のせいきょう

第34号　2011年9月20日
広島県生活協同組合連合会発行
〒730-0802
広島市中区本川町2-6-11 第7ウエノヤビル
TEL 082-532-1300
FAX 082-232-8100
E-mail:kenren.h@proof.ocn.ne.jp
URL:http://hiroshima.kenren-coop.jp

生協の平和の取り組み

広島県生協連・各会員生協では、様々な形で平和活動に取り組んでいます。その一部を紹介します。

ピースナイター ～3万人が心ひとつに～

生協ひろしま

プロ野球公式戦を通じて、平和の尊さを発信する「ピースナイター2011」。生協ひろしまの呼び掛けで始まったこの企画は4年目を迎え、本年は3万人を超える観客が、手渡されたポスター（中国新聞紙面）を掲げて核兵器廃絶をアピールしました（対巨人戦　マツダスタジアム）。

昨年と同様に今年も8月5日に行われ、始球式は「はだしのゲン」の作者の中沢啓治さんに依頼しました。中沢さんは平和記念式典への参列もあって、中国、朝日、毎日、読売、産経新聞の5社、テレビではTBS「みのもんたの朝ズバッ!」でも取り上げられました。

▲3万人がポスターを掲げてアピール

▲中沢啓治さん

5回裏終了時には、緑に染まった満員のスタンドの上段に、一本の水平な赤いラインを表現しました。（ピースライン）。高さは、原爆ドームと同じ25m。グランドでパフォーマンスをした高校生への拍手は、今までの中でひときわ大きな拍手でした。

3万人以上の市民が心をひとつにし、プロ野球を通じて平和の大切さを訴えるという目的は、大きく達成できました。

〈主催:広島東洋カープ、広島平和文化センター、広島電鉄、中国新聞社、生協ひろしま〉

▲監督・選手がつけてプレーしたワッペン

赤ヘルは復興の活力

66年前の8月6日、広島に原子爆弾が落とされ、広島に住んでいた14万人が亡くなりました。そのような中、市民は立ち上がり、原子爆弾が落とされて5年後、現在の県庁付近で広島東洋カープの結成披露式がありました。

カープは、1年目を最下位で終え、早くも経営の危機に直面し、食うや食わずの市民がカンパを寄せ、「たる募金」が始まりました。市民は生活の中で、カープに希望を託したのです。野球が生きる活力だったのです。弱くても応援し続けたのです。

今年8月6日、広島で公式戦が開催されました。これは1958年以来、実に53年ぶりのことです。

平和だからこそ、スポーツができるのです。平和だからこそ、家族で食事ができるのです。（生協ひろしま担当者）

核兵器廃絶に向けて　署名の集約状況

核兵器も戦争もない平和な未来を子どもたちに手渡すため、平和市長会議が呼びかけている「核兵器禁止条約の早期実現を求める要請」署名に生協も取り組んでいます（目標は県内20万筆）。生協ひろしまでは、地域ごとに学習を重ね、わかりやすいチラシを作成して共同購入で呼びかけるなどして、既に13万筆を超えました。県連でも年末まで4回、街頭署名に取り組むことにしています。集まった署名は市民の意志として、平和市長会議から各国政府や国連へ届けることとなっています。引き続き署名のご協力をお願いします。

4ページに続きます ▶

ピースアクション in ヒロシマ 開催

全国の平和の活動と願いを広島に持ち寄る「ピースアクション in ヒロシマ」は、「継承と創造～ヒロシマから平和な未来を築こう!～」をテーマに、8月4～6日まで開催。3日間でのべ約1,700人が参加しました（主催:広島県生協連合会、日本生協連合会）。

〈メイン企画〉ヒロシマ虹のひろば

8月5日 広島県立総合体育館 グリーンアリーナ

～通算33回目の虹のひろば、64生協・1,000人が参加～

前半の式典「虹のステージ」では、主催者挨拶の後、松井一實広島市長にご挨拶を頂戴し、広島県連が全国生協にも呼びかけ取り組んでいる「核兵器禁止条約の早期締結を求める」署名（平和市長会議提唱）へのお礼と期待のメッセージもいただきました。被爆証言では、悲惨な実相を語られた後に「平和とは生きる喜びを感じられること」と締めくくられた江種さんのメッセージに、客席から大きな拍手が起こりました。

後半「みんなのひろば」はフェスティバル形式。ブース出展（29全国県内生協他団体）や主催者企画コーナーを設け、それぞれ自由に参加できるスタイルにしました。

今年は、震災の影響もあり、広島県外の参加者は120人減りましたが、県内参加が増え、子ども、大学生、親・祖父母世代まで幅広い参加のもと、笑顔と活気あふれる約3時間となりました。

プログラム

■ 虹のステージ
- ・オープニング（佐々木祐滋さん）
- ・主催者挨拶（浅田克巳日本生協連会長）
- ・広島市長ご挨拶（松井一實広島市長）
- ・被爆の証言（江種祐司さん）

■ みんなのひろば

◇東日本大震災被災地生協への寄せ書き贈呈

■ フィナーレ　フィナーレ・合唱

前半・式典「虹のステージ」

オープニング・佐々木祐滋さん

「原爆の子の像」モデル・佐々木禎子さんの甥。NHK紅白歌合戦での「INORI」は祐滋さんの曲。

松井一實広島市長ご挨拶

「被爆の実相を伝えることが年々難しくなるが、地道な活動を続けなければならない」と松井広島市長。

被爆の証言・江種祐司さん

8月6日の足取りを、手作りの地図で示しながら、光景を語られる江種さん。思わず息をのむほどの惨状のお話し。

フィナーレ・合唱

合唱組曲「そうれっしゃがやってきた」

戦後、唯一象が生き残った名古屋の東山動物園へ、子どもたちのため特別仕立ての列車が走った実話をもとにつくられた合唱組曲。命をいつくしむ心と平和のメッセージを、虹のひろば合唱団160人が元気いっぱい届けました。

後半・フリー参加「みんなのひろば」

オリヅル・プロジェクション

▲広島市立大学・芸術学部の学生さんたちが制作した、高さ3Mの「卵」のオブジェ。

▼卵の内側には、応募写真「折り鶴と私の大切なもの」全553点が次々に上映。学生たちの新しい感覚で平和を表現。

2020ビジョン・コーナー

2020ビジョンや核兵器をめぐる世界情勢について紙芝居で学んだら、署名コーナーへ（188筆を集約）。

平和Bigカルタ

ひざをつきあわせる子どもたちの姿は微笑ましく、平和を象徴しているよう。

被災地生協へ寄せ書き贈呈

みやぎ生協、いわて生協、いばらきコープの皆さんへ贈呈。

戦後、日本生活協同組合連合会結成にあたり、平和こそが豊かな暮らしと生協運動の発展の基となることを確認し、「平和とよりよき生活のために」をスローガンとすることを決め、様々な平和の取り組みを続けています。

分科会 8月4・5・6日

碑めぐり、被爆の証言を中心に、「サダコと折り鶴の話」「しげるくんと"まっ黒なお弁当"」など15分科会でのべ670人が学びあいました。

碑めぐり～広島城コース

広島城コースは初めての企画。軍都廣島からヒロシマの歴史をたどりました。

被爆の証言～感じたことを"2015年の私に届く"手紙に書こう

映像等も使い実相を語られる米田進さん。参加者は、聞いて感じたことを次回NPT再検討会議開催年の「2015年」に届くハガキに書きました。（マスコミにも取り上げられました）

アニメと被爆の証言 ～子どもたちに伝えたい、8月6日と、今の核兵器のこと

アニメ「太陽をなくした日」を見た後、沢田昭二さん（名古屋大学名誉教授）の、被爆体験と核兵器についてのお話しを、子どもたちも真剣に聞きました。

2011市民平和行進

2011市民平和行進は7月23日東広島を皮切りに6つのコース（東広島・因島・呉・三次・廿日市・広島）をのべ730名が行進し、沿道の皆さんに核兵器の早期廃絶をアピールしました。

行進に際し、行政からメッセージ・ご挨拶をいただきました。メッセージの中では、この取り組みに高い評価をいただいています。

メッセージありがとうございました

自治体	お名前
東広島市	蔵田義雄市長
尾道市因島総合支所	松浦正己支所長
呉市	小村和年市長
三次市	増田和俊市長
廿日市市	眞野勝弘市長
広島市	松井一實市長

【主　催】
2011市民平和行進広島県連絡会
- ○広島県原爆被害者団体協議会
- ○広島県原爆被害者団体協議会
- ○広島県地域女性団体連絡協議会
- ○広島県青年連合会
- ○広島県宗教者NGO協議会
- ○広島県生活協同組合連合会

7/23 東広島（119人）

7/24 因島（70人）

7/30 呉（125人）

7/31 三次（135人）

人類の生存を脅かす核兵器はいりません。子どもたちが安心してくらせる平和な世界を実現するため、私たちは核兵器の廃絶を訴えます。

8/2 廿日市（80人）

8/4 広島市内（201人）

♪青い空は青いままで子どもらに伝えたい…

商店街では笑顔でアピール

慰霊碑に献花・黙祷

話し合いで解決を!
子どものメッセージ

生協の平和の取り組み

平和の学習講演「原発事故から被曝と原子力について考える」　広島中央保健生活協同組合

8月6日、福島生協病院前院長の齋藤紀先生（現在は福島医療生協わたり病院内科医）を迎えて「原発事故から被曝と原子力について考える」と題して平和学習会を行いました。職員、組合員、地域へ呼びかけ、約180名の参加があり、関心の高さを伺わせました。

講演では、福島第一原発の事故による被曝線量と健康への影響について、チェルノブイリの原発事故と比較し、丁寧な説明がありました。深刻な土壌汚染やホットスポットの存在を知ること、しかしながら被曝量のリスクには冷静な対処をし、引き続き土壌調査と線量低減化、健康調査が必要であると強調されました。

原爆投下から66年目の夏を迎えた広島。「ヒロシマの被爆者、被爆者運動の経験をフクシマで活かすためには何をすべきか、まずは、なぜ原発を許してきたのかを考えなくては始まらない」と参加者一人一人に今一度考えるよう語りかけられました。

※齋藤紀先生:福島県立医科大学卒業、広島大学原爆放射能医学研究所で内科・臨床血液学の研究に従事。チェルノブイリに医師団の一員として派遣された経験を持つ。福島第一原発事故直後からいち早く臨床に加わり積極的に医療活動や広報活動に携わる。

（組織部 藤原）

絵碑前集会　広島医療生活協同組合

8月6日午前8時より、広島共立病院前に建立した原爆絵碑・植樹したアオギリ3世の前で105名の職員・組合員とともに平和集会を開催しました。

まず村田委員長が挨拶。東日本大震災による地震・津波・原発事故の3つの大きな被害に触れ、「特に原発事故は全世界に恐怖と脅威をもたらすものとなった」と指摘。

核兵器と原発は区別され、原発安全神話のもと、原子力の平和利用が黙認されてきましたが「原子力発電所の構造や機能など常に危険と隣り合わせであることが明らかになった」「核兵器廃絶、脱原発の学習と運動をいまこそすすめましょう」と呼びかけました。

▶集会開催場所の絵碑

被爆者が書いた原爆の絵 森正喜美子「ピカドンを忘れないでください」

続いて青木医師が、当院の被爆者医療の実績と役割を、広島市の統計と比較しながら話し、改めて被爆者や被爆2世への支援・連帯活動の重要性が強調されました。フクシマ原発の問題では、人体への影響や食物の安全性についても触れ、正しい知識と生協職員としての対応について考えさせられました。参加者全員で黙とう後、井上さん（リハビリ）三角さん（検査）の二人の青年職員による原爆詩の朗読に、平和への想いを馳せました。

最後に、「青い空は」を合唱し平和集会を締めくくりました。

（組織部 坂本）

平和のつどい　日立造船因島生活協同組合

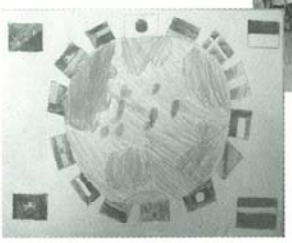
▲平和のつどい 因島コンサート

7月24日（日）大変暑い中市民平和行進を行い、元気良く声を高らかに響かせ沿道に核兵器廃絶をアピールしました。行進後は平和のつどいを開催、広島平和祈念資料館より借用した「ヒロシマに一番電車が走った」（DVD）鑑賞と、アンダーグランド平和バンドの皆さんによるミニライブがあり、ラストには「青い空は」を合唱し、会場全員が一体となりました。

つどいの終了後、平和の絵、川柳の審査（投票）を行いました。集まった力作の中から、平和の絵の部門では住田凌真さん（小3）の作品が、また川柳の部門では「モミジの手かさねて歩む楽しさよ」など2作品が最優秀賞に選ばれました。

なお受賞者には、コープ商品が贈呈され、作品は店舗に掲示しました。

（総務課 吉村）



◀平和の絵の部門最優秀賞 住田凌真さん（小3）の作品

VEGETABLE OIL INK この印刷物は環境にやさしい植物油インキを使用しています。
この印刷物は環境にやさしい再生紙を使用しています。